

おくむら・おおなかりレーコラム

おむらぶの日常

Daily of Satoshi Okumura

おくむら＝文 buchicho-club <http://www.s-okumura.com/>

ボクのサマーバターのスタンダードはジャコビーのジグヘッド、通称「跳ねジャコ」。ステイとフォールの食わせ分けとPEライン。まずはこれらの「キモ」を、ご理解くださいませ。

夏の定番、跳ねジャコ、PEの使用で真上に飛ぶ！

とにもかくにも、今年の夏は暑い。暑過ぎて頭がボーッとしてしまします。実は頭がボーッとすることでのは熱中症のサインのひとつなので、湖上で釣りをしているときにそうなら注意が必要です。呼吸が深くゆっくりになったり、視界が狭くなったりホワイトアウト気味になったり、冷や汗が出てきたりするのも熱中症のサインなので見逃さないでください。もし熱中症になってしまえば、とにかく釣りは中断。涼しい場所に移動して、一刻も早く体を冷やすようにしてくださいね。

そんなこんなで、とにかく暑い今年の夏ですが、その暑さに洗い堰の水門が閉まっていることもプラスして琵琶湖南湖の水温もグングンと上昇しています。そして、その高水温の影響で、完全無欠なサマーバターの動きをバスがするように変わってきました。少ないなりにでも流れのあるボディウォーターラインに集まってきたり、縦に伸びるウィードに

サスペンドしたり、群生するウィードの中に入り込んだり。バスが「涼」を求めているのが丸わかりです。

そんなサマーバターの釣りをするときのメソッドは、ヘビータキサスやリアクションラバージグなどが有名ですね。ちなみに今夏の琵琶湖南湖は、ヘビータキサスを使ったパンチングがブレイク中。たくさんポイントが水面まで伸びたウィードの群生地帯でパンチングをしている光景をよく見ます。ですが、ぼくのガイドでは、そんな流行に一切乗ることはなく、昨年同様に邪道・ジャコビーを使った「跳ねジャコ」を、ジャコビーのジグヘッドリグを跳ねさせる釣りを展開しております。

ジグヘッドを跳ねさせる釣りと言うと、跳ねる動きでのリアクションなどなどでバスを誘っているように感じてしまいがちですが、実際は、跳ねた後の「フォール」で、そして、ボトムもしくはウィードに引く掛かっている「ステイ」でバイトを得る釣り方なのです。つまり、リグの形や動かし方はひとつなのですが、2種類の状態にあるバスを狙っているつ

てワケ。それが「フォール」に反応するバスと、「ステイ」に反応するバスなのです。

まず「フォール」への反応ですが、そういったバスはボディウォーターラインのエビモやフサモといった縦に伸びるウィードの周囲にいます。ウィードはほとんど目で確認できるので、林状に生えている場所を見つけたら距離をとって釣りを開始。で、フォール時にラインに出るアタリに神経を集中です。



夏の定番といえばヘビータキサス？ リアクションラバージグ？ いいえ、ボクのガイドでは跳ねジャコが定番です！

は空間があり、涼を求めてバスはそこへ入ってくるのです。その中にジャコビーを滑り込ませて「ステイ」で食わせるってことなのです。

そうそう、跳ねジャコには必ず「PEライン」を使ってくださいね。これによって跳ねた時に、リグが真上になりやすくなり、フォールの距離が稼げたり、カナダモ系ウィードの隙間に滑り込みやすくなるのです。さらに、もじゃもじゃジャングル状態のカナダモの中に入り込んで、跳ねると真上に上がるので、ウィードの絡みを最小限に抑えてウィード内部から脱出することができるのです。だからPEラインは必需品。絶対に、お忘れなく！



リグが真上に跳ねやすくなり、フォールの距離が稼げるため、ラインは絶対PEを使うこと。お忘れなく！

ジグヘッドを跳ねさせるアクション。その中の「フォール」と「ステイ」に

頭がボーッとしてきたら熱中症のサイン。夢中になりすぎず、汗をかいながらしっかりと水分を取ることもお忘れなく

満を持して「ギルビー」登場！

ずっと内緒でテストきたブツが完成しましたので、今秋、満を持してリリースです！ ジャコビーの流れを汲むそのワーム、名前を「ギルビー」と申します。ジャコビー同様にジグヘッドリグでの使用がメインで、動きも上下左右に立体的に動きます。ぜひお試しください！！

